

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および3月5日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は1951年に設立され、その後増床と病院機能の向上に努められ、2002年に病院機能評価の認定を取得しており、その後も継続して認定を更新している。熊本地震などを経験しながらも、熊本県ブライト企業の認定を受けるなどの実績を積み重ねてきた。現在、許可病床数198床のうち40床が回復期リハビリテーション病棟として運用されており、そのほかに一般、地域包括ケア、医療療養、結核の各病床が整備されている。法人全体としては、複数の医療施設と各種介護保険関連のサービスを総合的に提供している地域の中核機関として評価される場所である。今回は、高度・専門機能の受審となったが、この受審が貴院のリハビリテーション機能を一層高めるうえで一役を担えることを祈念したい。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院としての理念・基本方針は適切であるが、病棟の理念、基本方針は、今少しICFの考えに沿ったものとして、利用者にも理解されやすい内容であることが望ましい。リハビリテーション科専門医の配置をはじめ、各専門職は施設基準を十分に満たしている。病棟の責任体制もおおむね確立している。環境整備に関しては、車椅子等の点検・整備は看護補助者の役割になっているが、車椅子の構造に精通したリハビリテーションスタッフが責任を持って実施する体制が望ましい。

回復期リハビリテーション病棟に必要なデータは収集され、分析されている。しかし、質改善や課題解決への活用に至っていないため、今後に期待したい。教育・研修に関しては、院内研修なども充実しており評価できる。

急性期病院との連携は適切であるが、一般病棟から回復期リハビリテーション病棟へ転棟する際のルールは今少し明確にされたい。退院時の地域サービスとの連携やリハビリテーション・ケアの継続についてはおおむね適切である。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

医師による診療業務、チーム医療の実践などはおおむね適切に行われているが、患者の健康管理における主治医、専従医、専門医の役割と連携を今少し明確にされたい。

看護・介護職の日常業務においては、その専門性の発揮、チーム医療の実践、質向上に向けた活動、質向上に向けた取り組みなど全般にわたり評価される。特に看護部の教育体制、各認定看護師の育成と組織横断的な関わりについては高く評価できる。

各療法士による日常のリハビリテーションは計画に沿っておおむね適切に実践されているが、チーム医療のさらなる向上のため3職種の記録の標準化については、今少し工夫されたい。療法士の研究活動、言語聴覚士と歯科衛生士の誤嚥予防に対する協働的関わりなど評価したい。

社会福祉士もチームの一員としての病棟活動がみられる。現時点では質の向上という意味での段階的教育プログラムなどが無いため、今後に期待したい。管理栄養士も栄養管理、NST活動などおおむね適切な病棟活動がみられる。スキルアップについても院内外の研修会参加や学会参加など、積極的姿勢もみられる。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

システム上、一般病棟からの転入者が多く主治医に変更がない事例も多い。患者の健康管理上の主治医と専従医の役割や転入時のルールおよび初期評価の手順が今一つ明確ではなかったもので再度確認されたい。

FIM評価は作業療法士だけでなく看護職など多職種の意見も反映される体制が望ましい。入棟後の多職種カンファレンスは今少し早めに実施されるよう検討されたい。病棟カンファレンスが多職種により定期的に行われ、患者の療養上の課題が検討されておりおおむね適切であるが、実施計画書が課題に沿っていないものも見受けられたので、さらなる充実に期待したい。退院に向けた課題評価・検討および生活指導等については、おおむね適切に実践されている。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅲ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅲ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅱ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	Ⅱ
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅲ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅲ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅱ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅲ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅲ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	I
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅲ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅲ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅲ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅲ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ